



リクガメと暮らす人々

その8



リクガメ日和

Text = だっくす小峰 komine Dax
Photo = 鶴田賢二 Kenji Tsuruta



加藤秀男さん。
埼玉県で、1984年から歯科医院を
開業している、カメ大好き院長。

奇跡のカメ?! ミラクルちゃんと、
27匹の幸せなカメたち!...

埼玉県
加藤秀男さん

はじめは1匹のクサガメ
からはじまった!

ヒョウモンガメ、アカアシガメ、パンケーキガメといったリクガメが15匹!そして、フロリダハコガメ、ミツユビハコガメ、キボシシシガメなどのカメたちが13匹!合計28匹のカメを飼育する加藤さんは、埼玉県で1984年から歯科医院を開業している院長先生だ。

加藤さんの飼育方法は、カメ好きには、あこがれの飼育方法だ。冷暖房を完備した8畳のプライベートルームに、エサを洗ったリ、カメの温浴ができるように2槽のシンクを取りつけるなど、カメ用に改造し、窓の外に8畳の広さのガラス温室を建て、出入りができるようにした。また暖かい季節には外で飼育できるようにと、屋外飼育場もある。そして、自宅の庭や近所に畑も作られていて、エサとなる小松菜なども作っているというのだからすごい!そんな加藤さんのお宅で飼育されている個体は、長期飼育されていて、健康状態も良く、そして大きい。なかでもその特徴である後方縁甲板が大きく伸びたマルギナータリクガメや、甲長20cm近いホルス



25年前から飼育しているクサガメ。このカメからすべてがはじまった。



- ① 後方縁甲板が伸びてカッコいいマルギナータリクガメ。
- ② バリバリとエサを食べていたインドホシガメたち。一番左の小さめの個体が、ミラクルちゃんだ。
- ③ 美しい甲羅のバンケーキガメ。
- ④ 甲長約20cmのホルスフィールドリクガメ。
- ⑤ キレイに成長しているアカアシガメ。



非常にキレイなミツユビハコガメ。



冬眠から覚めたばかりのハコガメたち。



昨年10月に生まれたばかりのミツユビハコガメ。かわいい。

ガラス温室から、飼育室を見る。いくつものケージが整理され、非常に清潔な飼育室だ。



最近飼育しはじめたモエギハコガメ。



加藤さんが手にしているのが、インドホシガメのミラクルちゃん。奇跡のカメ!



屋外飼育場。暖かくなると、タンポポが咲き乱れるという。もちろんカメたちのエサになる。



エサを洗ったり、カメを温浴させたりする2槽のシンク。とても清潔だった。



奥様と歯科医院スタッフの齋藤さん。

「7〜8年前なんですけどね。外で日光浴させていたインドホシガメが、ガラスに連れて行かれちゃったんですよ。もちろん注意していて、網のフタもしていたんですけどね。隙間から持って行ったちゃったんです。3月でまだ寒い日もあったし、もうダメかなって思っていたんですよ。それが2

フィールドリクガメの大きな個体はすばらしい。
「一番長く飼育してるのは、クサガメですね。25年くらい前かな? 母親が拾ってきたんですよ。子どもの頃から好きだったので、そのカメを飼いはじめたのがきっかけですね。クサガメは今でも元気です。そのあとホルスを飼ったんですよ。20年生きていました。今いるのは2匹目なんですよ」
加藤さんは朝起きると、照明を点け、エサをあげて、飼育室内を掃除。室内はとても清潔で、においもまったくない。そして仕事の休憩時間も、カメの世話をするため、この部屋に来るといふ。飼育者の管理が行き届いてこそ、すばらしい個体が育つのだと改めて感じる。そして暖かい季節に外に出してあげられるというのも、すばらしい。しかし、外に出すと危険が伴うのも事実だ。

「7〜8年前なんですけどね。外で日光浴させていたインドホシガメが、ガラスに連れて行かれちゃったんですよ。もちろん注意していて、網のフタもしていたんですけどね。隙間から持って行ったちゃったんです。3月でまだ寒い日もあったし、もうダメかなって思っていたんですよ。それが2

リクガメユーザー募集

REPANでは本企画「リクガメ日和」にご登場いただけるリクガメ愛好家およびリクガメを随時募集中です。住所、氏名、ご連絡先電話番号にリクガメの種類、飼育年数を入力の上、メールにて rep@cranewise.jp リクガメ日和係までご応募ください。

休日はこの部屋で1日中過ごすことも多いという、カメ好きな加藤さん。取材終了後も、私たちとの楽しいカメ談話がいつまでも続いた……。

週間後くらいかな?庭の植木鉢の横にいたんですよ!カラスが落としたのかもしれないですね。うれしかったですね!急いで連れて帰って、温浴させたりしたら、だんだん元気になってきて。今でも生きているんですよ。片足だけちょっと不自由なんですけども、元気です。奇跡的に帰ってきたから、ミラクルちゃんって名前がついているんですよ!」
それ以降、外に出すときは、今まで以上に注意を欠かさないという。